

理科2類から医学部進学へ



はじめまして、現在東京大学医学部医学科3年のK. M.です。

東大の医学部といえば、受験するときは「天下の理三」いうイメージしかないかもしれませんが、私が受験して合格したのは理科二類。理科二類からは毎年10人の学生が医学部医学科に進学することができます。そのための制度が、東大特有の「進学振り分け制度（以下進振り）」。私の大学1、2年の頃の大学生活を語るには、この進振りがどんな制度なのかを説明し

ておく必要があるので、まずは進振りの制度について説明しておこうと思います。

東大を受験する際の受験型は、文科一類、二類、三類、理科一類、二類、三類の6種類。〇〇学部〇〇学科に進学するのは大学3年次からで、基本的には各科類からどの学部へも進学することができます。「基本的には」と書いたのは、希望すればだれでも行けるということではもちろんなく、それを決定する制度が進振り。簡単に言えば、各学部には進学可能な人数制限があり、希望者人数がそれを超えた場合には大学での期末試験の平均点が高い方から制限人数分だけとるという、まさに大学入試と同じようなシステムです。制限人数は科類によって違っていて、例えば医学部医学科の場合、理三の学生はほとんど全員とるけれど理科二類の制限人数は10人、というようになっています。法学部は文一からが一番行きやすいし、経済学部へは文二からが一番行きやすいです。

医学科に話の焦点を絞ると、理二から医学科への進学が進振りの制度の中で最も難しいといわれています。理二から医学科に行くよりも、理三に合格する方が簡単だといわれているくらいです。その理由は、2年前期までの学期末試験で平均点91点以上くらいとらなければいけないからです。必修科目は特に色々な科目があるので、意外に大変なのです。

さて、私はこの一番大変な道を選んだということで、大学1、2年の生活は大学入試前と同じくらい勉強づくし…というほどではなく、楽しみながらも他の人よりは勉強もしっかりとした、という感じでした。もっとも、医学部を狙おうと思いはじめたのは1年の後期以降。東大を目指した高校生の頃から進振りの事は知っていて、もちろん行けることなら医学部に行こうとは思っていましたが、狙えるとは思わなかったので農学部に進学しようと思っていました。

1年の前期の理系科目の試験は夏休み後の9月初め。点数をとるに越したことはないと思っていたので、夏休みはそれこそ受験生に負けず劣らず毎日試験勉強した結果、医学部を狙える点数をとることができました。このままでは医学部進学は無理ですが、頑張れば行けるかもしれない！と思い、1年の後期からは医学部を視野に入れつつ履修を考えるようになりました。

とはいいつつ、後期からは「東京大学音楽部管弦楽団」というとても忙しい部活に入り、

さらに2年からは家庭教師などのバイトも始めるようになりました。勉強も大事だけれど、勉強以外のことにも色々挑戦して成長したい、というのが動機でした。進振りのために点数を上げなければいけないのは確かでしたが、一度しかない人生を勉強だけで費やすのは勿体なさすぎると思い始めたのでした。それからは、クラスの仲間でコンパをしたり旅行したりするときにはもちろん参加しましたし、実験の後にみんなでご飯を食べに行ったり、クラスの仲間で「東京観光」と称して、浅草や上野、横浜中華街、鎌倉など東京の色々な観光地に日帰り旅行に行ったりもして、遊びの面でも充実した日々を過ごすようになりました。

もちろん部活、バイト、遊びだけでなく、勉強もしっかりしなければ進振りのための点数を上げることができません。残された時間でいかに効率的に勉強をするか。そこで私は、戦略的に履修科目を決めました。色々な学内情報誌や先輩、友達から、どの科目が点数が取りやすいかなどの情報を集めてきて、自分の興味や得意不得意、将来にいかに関与するかなどといった事を考えて、選択科目の履修を考えていくのです。私が選んだのは、少数しか履修しない代わりに全て高得点を狙うという戦略でした。結果として、無事に平均点を上げることができて医学部に内定できました。

内定したとはいえ、全てが納得できたわけではありませんでした。大学の教養学部というのは、専門科目以外の分野を幅広く自由に学べるという場所であるべきなのに、進振りのためには自由に選ぶわけにはいかないではないかという矛盾に憤りを感じました。実際に、進振りのために第3外国語を2つも履修したりしていましたが、興味があった授業がとれなかったりもしました。自由に履修してそこでいい点数をとればいいではないかと思うかもしれませんが、実際にはそういうわけにもいかず、低い点数をとってしまうと行きたい学部に行けなくなる可能性があるのも、とりあえずどこかに進学できればいいやと割り切っている人以外は点数を狙って履修を決めるしかないのです。進振りによって大学進学後に自由に学部が選べるというのは、紛れもなく東大の長所だと思いますが、2年間の教養学部という場の意味を薄める原因なのではないかとも思わざるをえないですね。

周りの友達が割と遊んでいる中で、進振りに向けて真面目に勉強するのは結構つらいものがありました。それでも自分を頑張らせたのは、とにかく点数を上げようという意思があったことと、色々な活動をして気分転換を上手くすることで集中力を高めたことだと思います。大学に入ったのに未だに点数を競って勉強するというのは何かおかしいかもしれませんが、逆にそうすることによって多くの事を吸収できたし、結果として希望の学部に進めたわけですから私は満足しています。これからは医学部生として、責任を持ってさらに勉強していきたいと思っています。